



A4判・244頁・オールカラー
本体13,000円+税

咬合再構成のレベルアップを図りたい先生方へ 基礎に裏打ちされた歯科臨床の真髄がここに!

う蝕、歯周疾患、欠損歯列、咬合崩壊、審美障害などの多様な病態を現す患者に対し、どのように診断し、どこから手をつければよいのだろうか。顎口腔系にみられる疾患は、種々の原因因子、関与因子が複雑に絡み合っており、開業医には歯科全般にわたるバランスのとれた診断能力と手技が要求される。本書では、『月刊デンタルダイヤモンド』2015年1月号から2016年12月号まで連載した同名コーナーに大幅加筆し、修復、歯周、補綴、咬合、審美を含めた包括的歯科診療の真髄を解説。基本に忠実な処置の積み重ねのうえに成り立つ、歯科臨床の到達点がここにある。

包括的 歯科診療 入門

現象と時間の視点から

【著】小川廣明(山口県・小川歯科医院)

詳しい
情報は
こちら



CONTENTS

第1章 なぜ包括的歯科診療なのか? なぜ基礎が重要なのか?

第2章 包括的な視点から病態を診断するための3つの柱

【I】病態分析 【II】炎症と力 【III】時間軸

第3章 【I】病態分析

個別的診断

- 患者個別の病態 ●顎顔面の病態 ●歯列咬合の病態
- 歯牙歯周の病態 ●個別的診断に基づいた病態分析と咬合再構成

総合的診断

- 疾患を総合的に診るとは ●総合的診断のための3つの指標
- 総合的診断に基づいた病態分析と咬合再構成

第4章 【II】炎症と力

炎症のコントロール

- 歯周治療における基本事項 ●炎症と力のコントロールによる咬合再構成

力のコントロールはどこまで可能か

- 咬合再構成における力のコントロール
- ブラキシズムに対して犬歯誘導は有効か
- 睡眠時ブラキシズムと犬歯誘導
- 犬歯誘導と臼歯離開咬合は本当に必要か
- 神経生理学的視点からみた力の問題
- 咀嚼筋以外の外部からの力に気づく

第5章 【III】時間軸

- 歯科臨床を時間軸のなかでみる
- 患者とその疾患の背景にある流れを診る
- 崩壊する歯列と崩壊しない歯列はどこが違う?
- 現象と時間の視点から咬合崩壊を振り返る

第6章 包括的歯科診療における修復治療

- 歯冠修復における基本事項
- 歯周組織のマネジメント
- 咬合再構成における修復治療

第7章 咬合崩壊と咬合再構成

- 咬合崩壊とは
- 下顎位をどう診断し、どう求めるか
- 咬合再構成における優先順位を考える
- 形態的調和と機能的調和の模索
- 咬合再構成における補綴処置

第8章 包括的歯科診療を実践するには

第9章 フォローアップからみる経年的変化